［三重県　桑名市］

■　多世代共生型施設「桑名福祉ヴィレッジ」について（施設見学）

新しい福祉のカタチとして、少子高齢化や人口減少、福祉ニーズの多様化・複雑化など、福祉分野を取り巻く環境は大きく変化してきている。それらの課題に対応した福祉サービスを確保するため、高齢者・障害者・子どもなどに対して通所や入所、相談などを包括的に提供する多世代交流･多機能型の福祉施設の整備が令和４年４月にオープンした。

＜事業内容＞

以下の事業を一体的に整備し、子どもから高齢者までが一緒に過ごすことができる多世代共生型施設をめざす。また、地域の人が交流できる地域交流施設や公園、店舗も備えた複合的な施設が整った。

- シルバーサポートらいむの丘ハウス（養護老人ホーム）
- らいむの丘ハイム（母子生活支援施設）
- 児童発達支援センターライムの丘（児童発達支援事業所）
- らいむの丘保育園
- 相談支援センターらいむの丘
- ケアプランセンターらいむの丘
- ヴィレッジセンター（地域交流施設）
- らいむショップ（店舗）

【事業の実施】

◆すまいのエリア

母子家庭や高齢者の暮らしを支える施設。シルバーサポートらいむの丘ハウスの食堂からは、隣の保育園の遊戯室の様子を見ることが出来るようになっており、日々の生活の中で子どもたちから元気をもらえる。幼児と高齢者との関わりが持てるレイアウトになっている。

◆かよいのエリア

子どもから高齢者・障がいのある人まで、様々な人が通う施設。子どもたちが年齢や障がいの有無にかかわらず、自然な交わりの中で過ごせる環境を目指している。また、障がい福祉サービスや介護保険制度の利用に必要な計画を立てる事業所もあり、障がいのある人が高齢者になった際にも施設内で連携し、途切れのないサービスを受けることが出来る。

◆かかわりあいのエリア

施設の利用者やその家族だけでなく、誰もが気軽に訪れることが出来る「ヴィレッジセンター」と食料品や日用品、ハンドメイドのアクセサリーなどの販売を行う「らいむショップ」がある。ヴィレッジセンターの１階には交流ラウンジ、２階は地域住民の交流や社会福祉の増進などを目的に利用できる会議室が完備されている。

◆ヴィレッジ公園(やまざきパーク)

芝生広場と散策路からなる公園。愛称「やまざきパーク」は、福祉ヴィレッジに移転される前の福祉施設の土地が、戦後まもなく山﨑氏から寄付を受けたことに由来している。そのご意思に敬意を表し、またこれまで行ってきた福祉サービスをこの福祉ヴィレッジで引き継ぐという意味を込めて名付けられた。

【事業を開始したことによる成果】

誰もが居心地の良い場所へと、廊下や手洗い場が広くなり、職員の動線もスムーズに良くなった。保育園の遊戯室が廊下を挟んで隣合っているので、子どもたちの生き生きとした姿や声が高齢者の皆さんのより良い刺激になっている。

【今後の課題】

福祉の現場で課題となっていたこと、これからの時代に必要とされることなどを凝縮した施設として全国各地から、これからの福祉のあり方のひとつとして注目された施設にしたい。今後は事業所内だけでなく、地域を巻き込んだ活動をしていきたい。

【視察をして感じたこと】

これまでの福祉施設は、保育所と高齢者・生活介護・障がい者など対象者や分野こどに縦割りで提供していた施設を、包括的に一体施設となっていることに、これからの福祉のカタチを垣間見ることが出来ました。地域の人や施設利用者が交流しやすくなるような施設が自然と地域に溶け込みやすく、多くの人に利用されている姿を視察させていただきました。